

2021年度 新潟大学災害・復興科学研究所
共同研究成果報告会プログラム

日時：2022年2月26日 10:00～16:45 ZOOMを用いたオンライン
発表時間12分+質疑3分

【午前の部】

10:05-10:20

地すべり地に供給される融雪水量の時間・空間変動の評価

大沢 光（森林総合研究所）

10:20-10:35

山地域の積雪深データを用いた冬季解析雨量の精度検証

吉田武郎（農研機構）

10:35-10:50

雪おろシグナルを利用した山地積雪重量の時空間分布の定量的評価

平島寛行（防災科研）

10:50-11:05

小型LiDARによる吹きだまり形状計測のための基礎的実験

大風 翼（東京工業大学）

（休憩）

11:15-11:30

雪・水・火山砕屑物による混合流の粘性評価

桂木洋光（大阪大学）

11:30-11:45

沿岸部における風による砂粒子の飛散・堆積の数値シミュレーション技術の開発

富永禎秀（新潟工科大学）

11:45-12:00

克雪住宅普及状況からみた豪雪地帯の地方都市における地域脆弱性評価に関する研究

福留邦洋（岩手大学）

【午後の部】

13 : 00-13 : 15

テフラ土層の粘性土における地震地すべり発生メカニズムの解明

後藤 聡 (山梨大学)

13 : 15-13 : 30

カルデラ火山地域におけるマスフロー発生機構と災害評価

宮縁育夫 (熊本大学)

13 : 30-13 : 45

粘着性・非粘着性ラハールの数値モデル化

常松佳恵 (山形大学)

13 : 45-14 : 00

水蒸気噴火および粘着性土石流を多発する現象発生場の地質・岩石学的特徴の解明 : 安達太良火山沼ノ平での事例

井村 匠 (山形大学)

(休憩)

14 : 10-14 : 25

福島県浜通り地域における津波痕跡と遺跡の動態に関する研究

加藤 学 (新潟県教育庁)

14 : 25-14 : 40

佐渡島羽茂地区の古津波履歴と波源の解明

菅原大助 (東北大学)

14 : 40-14 : 55

瀬戸内海沿岸域における津波堆積物の探索

寺林 優 (香川大学)

14 : 55-15 : 10

18~19 世紀における信越地域の地震活動とその特徴

原田和彦 (長野市立博物館)

(休憩)

15 : 20-15 : 35

リサイクル資材を活用した酸性温泉廃水の中和処理における環境安全性評価
齋藤健志 (産総研)

15 : 35-15 : 50

堆積物の放射性核種と物理・磁化特性を用いた土砂流出イベント履歴の復元
落合伸也 (金沢大学)

15 : 50-16 : 05

北陸地域の落雷・雷被害の大地からの研究ー地球電磁気を中心に
酒井英男 (富山大学)

16 : 15-16 : 30

日本海側地域に豪雨・豪雪災害をもたらす異常気象と気候変動
川瀬宏明 (気象研究所)

16 : 30-16 : 45

複数種の物理センサと計算技術を融合した全層雪崩の発生予測手法の構築
勝島隆史 (森林総合研究所)

【参加申込】

申込締切 2022年2月22日(火) 16時まで

- ・メールにて、新潟大学災害・復興科学研究所 nhdr_office@gs.niigata-u.ac.jp まで、申し込んでください (メールの件名 : 2月26日2021年度新潟大学災害・復興科学研究所共同研究成果報告会)。

メールの本文にて、お名前、ご連絡先、ご所属、職名(学生の方は学年)をお願いいたします(個人情報は本件以外に使用しません)。申し込みのあった方へ、オンライン接続(Zoom)に関する情報を返信いたします。